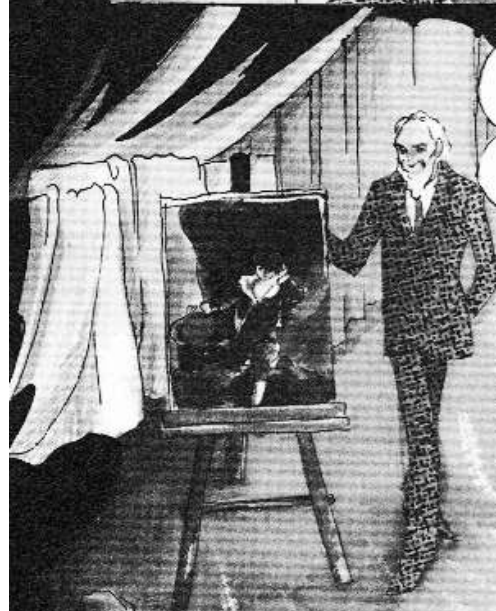
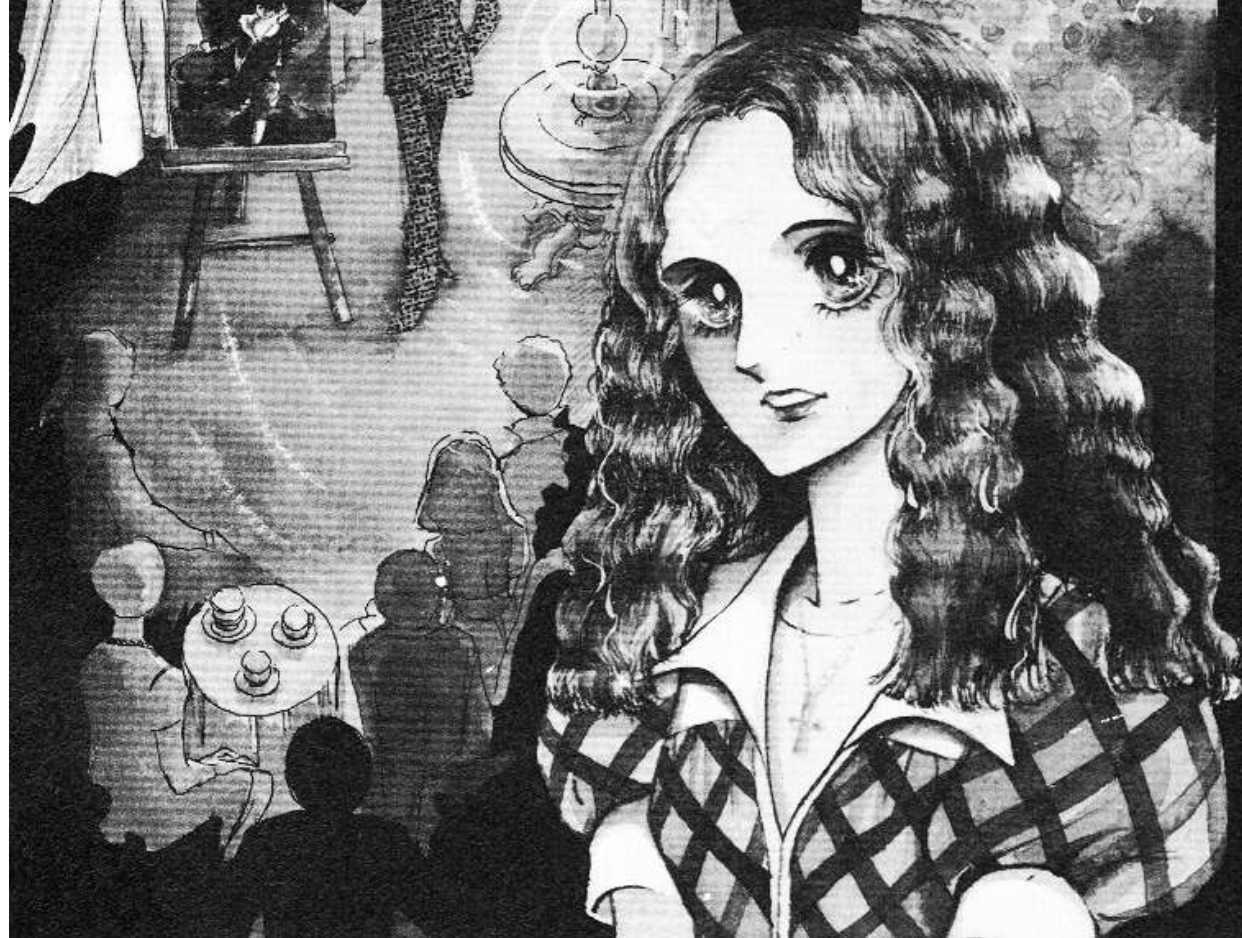
ランプトンは語る

一九六六年
七月
なにせ古い
館を手にいれ
ましたので
まだ配線工事も
すんで
おりません
さて
お集まりの
みなさん
どうぞ
この絵を
ごらん
ください

あら トーマス・ロレンスの「ランプトンの肖像」だわ
その通り
ただし これは模写です
トーマス・ロレンスは 十八世紀の肖像画家でした いまなお愛くるしい少年やほほえむ婦人の絵は世界の人びとに愛されています
顔がちがうでしょう
この絵をかいたのは 昔この館のあるじだったアーサー・クエントン卿です
ははあ たぶん
そのクエントン卿とやらはロレンスのランプトンをそっくり模写して
顔だけ息子の顔をいれたんだろう
彼に息子はいませんでした
……じゃ オイか孫か でなきゃ養子か
そんなとこだろう

アーサー・クエントン卿は風景や静物を好んでかいた画家でした
これをごらんくださいこれもクエントン卿のランプトンですポーズがちがいますが
一八八八年十月十五日の日づけです
自画像のほかには人物はこの少年だけで
……これには一八八八年九月三十日の日づけがはいってます
三枚めのランプトン日づけは同年十一月五日
このイスを見てください
四枚めイスのふちにすわるランプトン
この少年の肖像はぜんぶで十一枚あります
次つぎと紹介しましょう
シャーロッテあなたがいますわってるその大きなイスですよ
あら……！

五枚めイスのまえにたつランプトン
この少年がランプトンという名だったとは思えない
──がクエントン卿は彼を自分のランプトンだと思っていた
その名でよんでいたかも知れない
──ねえロジャー兄さん？なんだかあの子兄さんに似てない？
よせよ！

およそ二十日に一枚の早いペースで少年の絵はかかれています
六枚め カベのまえにたつ ランプトン
七枚め 火のそばの ランプトン
八枚め 階段の下にたつ ランプトン
九枚め 窓のそばの ランプトン
また一枚ごとに
少年は室内から外へと移動していきます
わ! 春!
十枚め 庭先の ランプトン

これが
最後の作
一八八九年
五月二十日
この後
クエントン卿は
絵をかかず
三か月後の
八月末に
三十三歳で
なくなって
います
〝ランプトンの
いない部屋〟
という題が
ついています
たくさん
血を
はいて
後年は
病気
だった
らしい
アーサー・
トマス・
クエントン卿は
幼年時代の事故で
左耳がなく
アゴにかけて
裂傷が
ありました
自画像は
右向きの顔を
鏡にうつして
かかれた
ものです
そのため
長く髪を
のばしていた
彼は
がんこで無口で
画商にも
あいそなしで
親族も村人も
そばによせず
結婚もせず
ずっと
この館に
ひとりで
住んでいた
年とった
下男に
身辺のせわを
させるほかは…

この少年がなに者だったたのか
いっさいの記録はなく不明です…
オービンさん
そんななぞなぞを聞かせるためにぼくたちをよんだんですかね
そのランプトンがなに者でもいいでしょう
がんこいってつの男がたまたま
どっかのガキを気にいってたくさん絵をかいたとそれだけの話だろ?
いえこの少年に関する話はまだある
まだ?
ミスター・ドン・マーシャルあなたの話をどうぞ
――ランプトンの絵を見つけたのはじつはわたしです
あの時のできごとは
まったくのぐうぜんだったのですが…

…今から
ちょうど十六年まえ
わたしは
大学生でした
夏の旅行を
楽しんでいて
あの日は徒歩で
ソーア川にそい
レスターの町へ
向かってたのです

わ

うわい
とつぜんの雨に
とびこんだ
館が――

――クエントン
館でした
わっ

あ すいません!
開いてたもんで!
旅行者
です…
雨で

あ そうですか
それは まま
わたしは
不動産屋です

おお
雷雨ですな
ちょうど
この家の
ようすを
見にきたん
ですよ
今 この家は
売りに出されて
るんです
はあ
古い
家でしょう

買いませんか ほりだしもん ですよ
カネが ないですよ 学生だから
——ランプトン!?
…いや こりゃ 模写ですね 顔がちがう そら ロレンスの
はー そうですか? 画学生さん ですか きみは
早く売れなけりゃねえ…税が かさむばかりで
お気に めしたら 持ってってもいいですよ それくらい
どうも この家は 売れないでしょうねえ
それで 旅の記念に もらうことにした
顔だけちがう ランプトンとは おもしろいと 思って
雨は じき あがり
彼のクルマで レスターまで 送って もらい
ちょうど やってきた バーミンガム いきの 列車に とびのった
よいしょ
あとは のりつぎが うまく いけば 夜は ロンドンの わが家につくな

ガタッ
ガタッ
ガタン
すげえバラ！どこぞのパーティーでもいくんかね
絵をよく見てなかったわたしは車中を気にもとめずすわりこんだ
ずいぶんあとになって気づいたがちょうどその日はクエントン卿がなくなったおなじ八月二十一日だった
次だよ
ん
ガタ
ガッ

エドガー
エドガー！エドガー
ああ大丈夫だよ
あっきみ
そらおりよう発車するよ
あっきみ
きみ！
きみ
ケケガしたのはきみのほうだろう
!?
彼は血を見て気分わるくなってるんだよすぐなおるよ
ほんにすまん医者にいかなけりゃ
うんもういい
アランたてる？

あ
おい
おい
きみたち
医者に
みせなきゃ
医者に
大丈夫
大丈夫って
そんなに切れて
血が出て
ぼくは
責任上…
おい　こら
きみ
きみ
国定公園
—入口—
国定公園

おいきみ！
ここは――
公園じゃ
ないか
送ってくださって
ありがとう
ぼくの家は
あそこ
えっ…
キズは
たいしたこと
ありません
から
もう血は
かわいていてる
…しかし
きみの
両親に
あやまっと
かんと…
両親は
いません
二人
だけです
さようなら
家出少年じゃ
あるまいな
…
いや
両親が
留守なの
だろう――？
???
まあ
よかった
ケガが
かるくて…？
ン…？
国定公園

えき
なに
列車？
いま出たェ
明日までもう
ないェ
えーっ
ピー……
そんな…あの
ホテルは？
クソ
村には
なにもないェ
駅のベンチ
で　ねなェ
そんなー
…それで
少年たちの家へ
むかった
たのめば
ひと晩だけ
なんとか
ここだった
かな
あっちかな
おめっけ
国定公園
こんばんはー
こんばんはー
えーっと
エドガーと
よんでたな
エドガーくん
いるかね
エドガーくん
いる…
赤いバラが
だんろで
もされていた

連中は?
月夜の
黄色い
バラの中

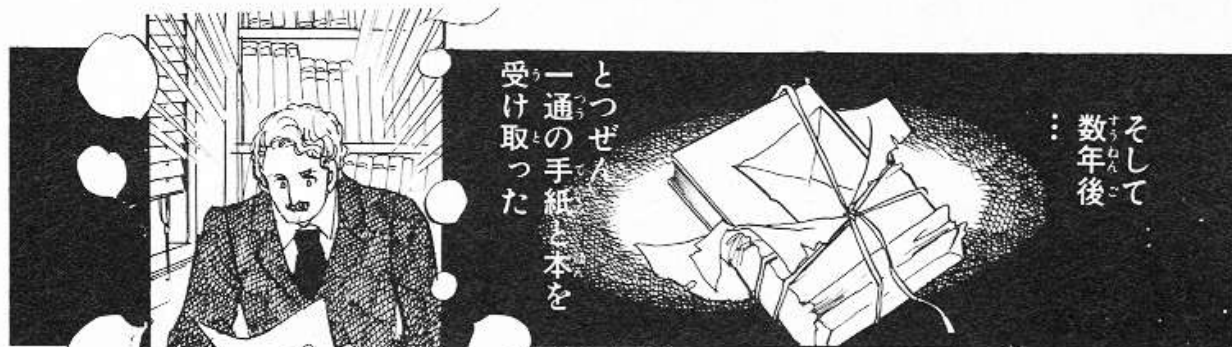
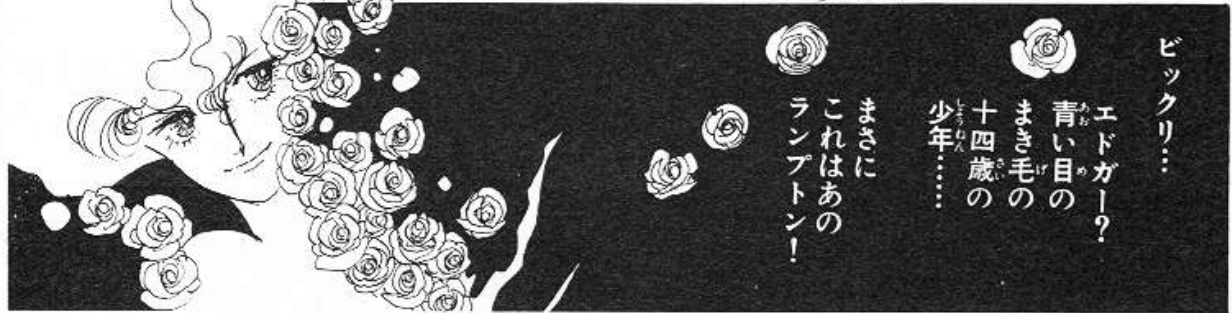
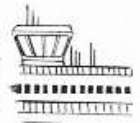
あの
すまんが
パラ パラ パラ
列車にのれなかったらしいね
うん！でずうずうしいとは思ったけど
人の情けをたよって…ぼくは
学生証を見せろよ
およしアラン

はきらわれたらしい
お気になさらず おやすみなら ベッドを用意します
いや
いや ここで いいよ ぼくは
食料も持ってるから
では お茶を
…どうも ずっと この家に 二人で？
夏だけ
ああそうか じゃ いわば キャンプだね
……
いいとこだ ここらは昔 キツネ狩りが さかんだったんだってね？
ぼくは あちこち 旅行してて…
しんしん しんしん 夜の音
少年は 青い目を してる
なんだか 一人で しゃべりつづけ
目ざめると 朝になってた

なんでぶち殺してしまわないのさ
ぶち殺す？ぶっそうだななんの話だ
学生さん列車は九時…時間がないよ
お　そうかどうもせわになって
そら…彼が目をさましたよ
バラはぜんぶもされていた
……
なんだか違和を感じる二人…しかしとめてもらってもんくもいうまい
列車にはまにあったやれやれ
これはまた落ちないように下においとくか
ああ…この血…絵にしみてないかな
べつになんともないようだ

おおランプトンですな
はあ顔ちがいですが
おやこれは…あの少年エドガーに似てる…そうだこんな顔だ…
いやむしろそっくりだ
そのものだ
月の夜牧神は笛を吹く

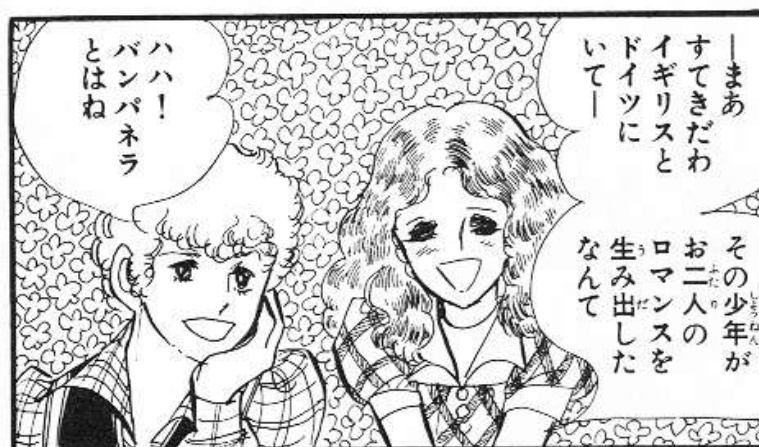
わたしは
ひきかえした
なぜ?
なぜって——
わたしは
ただ
もう一度
見たかったのだ
彼らを
おい きみ!
エドガー!
アラン!
ぼくだ!
ドン・
マーシャル
だよ!
おーい!
そんなところで
戸口をそう
たたいちゃ
いかんェ
文化
記念館ェ
そりゃ
…文化…?
この家も!?
国定公園に
ふずいしとるェ
わしが
管理しとるェ
ビクトリア
王朝初期の
キツネ狩り
用の
宿屋ェ
ナニ?
…でも昨日は
あいてた…!
住んでた
住めない
はずの
家に

カギをあけて
はいってみると
バラのもえかすが
だんろに
あった
管理人は
どこかのガキが
コテージがわりに
使ったのだと
かんかん
彼らは
どこかに
いってしまった…
ほんとに
彼らは
ただの
いたずらガキ
だったの
だろうか？
でも
…
そう考える
には
あまり
にも…
あまり
にも…
あの夜の
彼らは
すきとおって
見えすぎる
それから三年後に
（一九五三年に）
国定公園と
ランプトンの
絵のことを短編にし
大学の
同人誌に
発表した
作品の
タイトルは
「ランプトン」
とした

そして数年後……
とつぜん一通の手紙と本を受け取った
それは一九六四年の年あけたころ
わたしは大学を出 出版社にいた 独身三十六歳
手紙は わが社の雑誌の愛読者からで
――自分はあなたの「ランプトン」をずっと昔よんだものだが…
最近出た ドイツの訳本に それと よく似たすてきな 話がのってたので これを送る――
その本のタイトルは「グレンスミスの日記」
グレン・スミスの日記 他 短編集
マルグリッド・ヘッセン
著者は 西ドイツの 女流作家 マルグリッド・ヘッセン
霧にまよった グレンスミスは バラだらけの ポーの村へ みちびかれた
そこは 永遠の時を 生きる バンパネラ 一族の かくれた里 (バンパネラ!)
彼はそこで 少年エドガーと 妹メリーベルにあう 二夜をすごし 帰還するが もう 村のいり口はどこにも 見つからなかった
ビックリ…
エドガー? 青い目の まき毛の 十四歳の 少年……
まさに これはあの ランプトン!

ロンドンから西ドイツのフランクフルトまでいっきにフライト
初めましてドン・マーシャルさん？
わたしマルグリッド・ヘッセンです
美人だ！ミスか？ミセスか？
お手紙をいただいた時は驚きましたわ
指輪をしてないミスだ！バンザイ！
おれフランクフルトまでなにしにきたんだろ
こちらがあなたが十一年まえかかれた「ランプトン」
これがわたしのひいおじいさんの話「グレンスミスの日記」…百年もまえの二つの作品の類似点は――
エドガー
…どうして少年の特徴がこうも似てるのだろう？

それはきっと同一人物だからですわ
…だって バンパネラは長生きですもの
あなたもロマンチストですね ヘッセンさん
ものをかくのは だからです その時だけ わたしは子どもにもどれます 奇跡や魔法が使えます
あなたも夢を見るでしょう？
この古い日記を手に グレンスミスのふしぎなポーの村の話をしてくれたのは祖母でした
小さかった わたしは すっかりそれを信じました
でもやがて おとなになる代価に
……魔法や夢を支払った……
……夢……？
バタン
マルグリッドおばさん！
ま ひさしぶり オイのルイスです 今度大学生
こんにちは
あのランプトンはどうしたの？ まるでエドガー・ポーツネルの顔だけど
ああどうも マーシャルです

アラン・トワイライトとエドガー・ポーツネル
ぼくがこのガブリエル高等中学の四年だった時さ…
イギリスから転入してきたんだよ
その学校の書類には転入生の名がちゃんと記されていた
エドガー・ポーツネルとアラン・トワイライト
いたのは二か月ぐらい
すぐいなくなった…
ルイスはエドガーたちのことを思い出すかぎり話してくれた
ちょっとぞっとなった
つまりこんなふうに世界のどれほどの地域どれだけの年代にわたって偶然にもエドガー・ポーツネルという名が書類にちゃんと記されているのか？
ランプトンや国定公園のエドガー
グレンスミスの日記の中にまたガブリエル高等中学に

マルグリッドは笑う
それは
グレンスミスの
いうように
不死である
バンパネラの
一族だからと
あなたも夢を
見るでしょう？
わたしは彼女に
ほほえみをかえす
時のおりなす
偶然の
結び目を
わたしたちは
見ただけかも
しれない
エドガー
アラン
メリーベル
時はわたしに
そんな夢を
見せてくれた
だけかも
しれない
そうだ
こうなれば
あとは
疑うか
信じるか
どちらかしかない
わたしは
グレンスミスを
信じることに
した

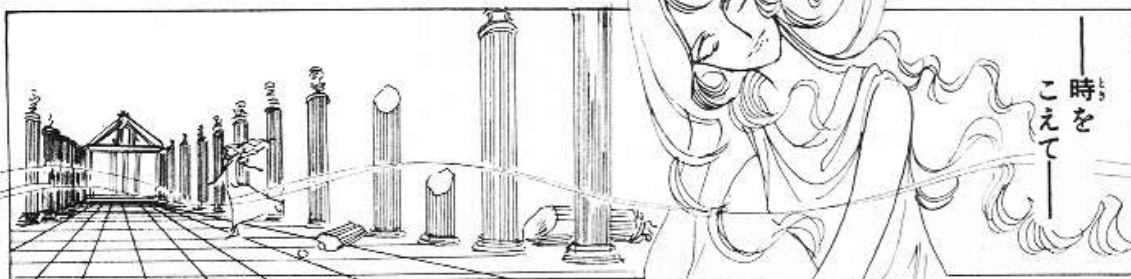
それから わたしたちは イギリスに もどり 結婚しました
よく年の夏（一九六五年） これまでのいきさつを 「バンパネラ狩り」というタイトルで 小さな本にして 出しました
以上が わたしと マルグリッドの 話です
—まあ すてきだわ イギリスと ドイツにいて—
その少年が お二人の ロマンスを 生み出した なんて
ハハ！ バンパネラ とはね
「バンパネラ狩り」 わたしは昨年 書店でこの本を 見つけ すぐにドン・ マーシャルに 会いにいった
そしてこの クエントン館を 訪れ これを 買い さらに 十枚の ランプトンを 見つけ 出しました クエントン卿の ことも調べました
それで？ あなたがたは この館に 集まって 次の作品の 構想でも ねって いらっしゃる んですか？

わたしたちの目的は
〝狩り〟です！

狩る？
いもしない少年を？
います……わたしも昔エドガーにあった
わたしだけじゃない
あの老婦人もです——
彼女の名はリデルもうなくなっていませんが
彼女は小さいころゆくえ不明になっていた八年のあいだエドガーとアランと暮らしていたというのです
彼女は二人の少年に森で育てられたのです
彼らはいます
時をこえて存在しています！
わたしは三十年来彼らを追ってる
空白をうめワナをはり追いつめることができれば
彼らはきっと姿を現すでしょう！
——！

バカバカしい——
いや失礼!
ロジャー兄さん!
でもぼくはバンパネラマニアじゃないのでね
招待されてきただけだからそんな話は…
あなたがたも
わたしの見つけた王手の一つだ
なぜなら
あなたがたは…オズワルド・オー・エヴァンズの子孫だから!
オズワルド・エヴァンズ…?
え!!
エヴァンズ家系譜
オズワルド
(結婚1757年)
クリフォード
(女の子)
よめさん
(1778)
(1784年生) ヘンリー
(1790・生) ロジャー
エレン
(1820)
よめさん
(1823)
(ふたご)
ロジャー (死亡)
ヘンリー
メリー・アン (いとこどうし)
(1839 双方16才いで結婚)
(1846年生まれ)
ロジャー
よめさん
1876
オスカー
よめさん
1897
(1910年・生)
オスカー
よめさん
1945年
ベン
よめさん
1924
♂ (死亡)
ジェームズ
よめさん
1943
ヘンリー (長男)
ロジャー (次男)
シャーロッテ (長女)
エディス (末娘)

そう
エヴァンズさん
ちょうど
二十一年前の冬
ロンドンの
エヴァンズ
図書館が
火事で半分焼け
とりこわされる
ことになった
で　わたしは
たまたま訪ねて
いったのですよ
それは
クリフォード・
エヴァンズ伯爵が
一七八三年に
図書館として
市に寄贈した
館です
財政が苦しく
なったんで
しょうな
そして
古い本や
記録の中から
この遺書と
ドクトル・ドドの
手記を
見つけ出し
たのです――
エドガーおよび
メリーベルと名のるものが
エヴァンズ家の子孫のまえに
現れた場合は
彼らのいっさいにかかわらず
エヴァンズ家の資産すべてを
付与すべし
一七八〇年
オズワルド・オー・エヴァンズ伯
このへんな
遺書を
かいたのが
ご先祖!?
彼は
ハンサムな
男だった
そうですよ
さてこの
古い遺書は
次つぎと
ひきつがれて
ヘンリー・
エヴァンズの
代に…
ヘンリー!?
そ
長男ヘンリー
次男ロジャー
エヴァンズ家では
よくある名だ

ヘンリー・エヴァンズの時代エドガーは姿を現した
一八二〇年の一月に――
以下は当時ヘンリーの館にいたドクトル・ドドの手記によるが
たまたまヘンリーが川から助けた青い目の少年の名がエドガーといったという
そこでエヴァンズの遺書にもとづいてヘンリーは少年のせわをしたが
のちに現れた少女メリーベルとともに姿を消してしまった
しかもその館でアーネストという少年がエドガーに血を吸われるという事件がおこっている
血を吸われる!?
昔話だよシャーロッテ!
ドクトル・ドドは連中がバンパネラであろうといってる
ドクトルはエヴァンズの遺書と家系を調べてみた

昔話でしょう!
バンパネラだなんて!
遺書をかいたオズワルド・エヴァンズには母ちがいの兄だいがいたが
これは赤んぼうの時に死んでしまっている
その名がエドガーとメリーベル
もう一人ユーシスという弟がいたがやはり若くして死んでる
あとでメリーベルという名の十三歳の養女をむかえているが
これもすぐなくなっている
まあ…
そりゃやっぱりおとぎ話じゃありませんかそれだけじゃわけがわからない
そうつまりなにもわからなかったのだ
しかし
ヘンリー・エヴァンズはエドガーにあったのだ
オズワルドが三百年まえに遺書で予言したことはいつか子孫が〝エドガー〟に〝メリーベル〟に会うだろうということだった
はるかに
はるかに
…時をこえて

――時をこえて――
…さて今度はきみの話をルイス・バード
ルイス…？あのさっき…エドガーといっしょの学校にいたといった？
ええ――転入してきたエドガーとアランの話はさきほどの通りなんです
でもマーシャルさんたちがエドガーに固執していたんで
この春自転車で西ドイツを旅行するついでに…
昔の友人どもを訪ねてみようと思ったんです
エドガーとアランのことをだれかもっと語ってくれるかもしれないと……

最初に訪ねたキリアン・ブルンスウィッグはいなかった
彼は いつ帰るか
わからないのです
彼の部屋はきちんとしていた
いつ帰ってもいいように
そのままにしてあると 彼の養父たちはいった
これはキリアンがよく読んでたドイツ史の本です
いなくなった日ベッドの上にあった
あなたがお友だちならどうぞ持ってってください これを
彼は
もどってこないかもしれない
さようなら またいつか あえるまで
キリアン ブルンスウィッグ
もどって？
どこから？
東ドイツから？
キリアンが小さいころ東ドイツからきたってことはみんな知ってた
彼のお父さんが東ドイツのどこかにいることも
ぼくはキリアンと仲のよかった
テオ委員長を思い出していた

彼 ボンの大学にいってたはずだ
トントン
テオドール
うるせい 留守だ!!
テオ
ぼくだよ ルイス・バードだよ
あっ
おーー
ひさしゅう! 高校卒業いらいだな まあはいれ
かわってないね きみ
まあすわれ お茶いれよう
ああきみーー 大学で血液の勉強してんの?
はは これか きみも百ccほどくれよ
ぼかあ 学校中の人間から血を集めてるんでいささかきらわれてる
まるでバンパネラだ!
昔からきみは黒魔術にこってて
この本は…
あ…あ それ
…キリアンの本 キリアンちのおじさんがくれたんだ

さようなら
またいつか
あえるまで
キリアン
ブルンスウィック
テオ!
これ　くれよ
——え?
なあたのむ!
ヤツはオレに
血しか残して
いかなかった!
オレはヤツのは
なんにも
持たないんだ!
キリアンは
ここへきたの?
ああ　きた
たっぷり
血をくれに…と
おわかれにね
オレが
血液の研究し
始めたのは
キリアンの
せいさ
これは
黒魔術の
つづきだよ
——オレは
見つけなきゃ
ならないんだ
ほんとうに
あの時の
できごとは
悪夢みたいな
もんだけど
こんちくしょう
あの転入生たちは
たしかに…
いたんだ
エドガーと
アランの
こと!?

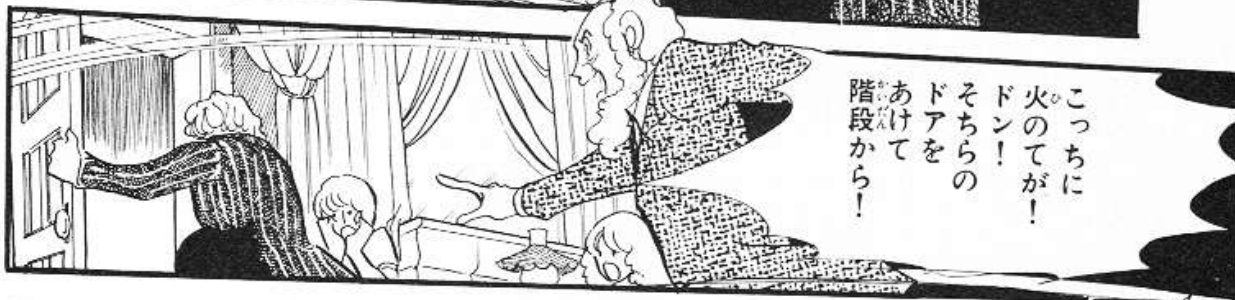
テオ！
連中のことでなにか知ってるなら 話してくれよ！
あの転入生
なんでもいいんだ
覚えてるだろ？テオ？
あの時のできごとって？
…あほくさ！
きみは信じないいさ！
テオ！
じゃ これはやんない！
…さて……そろそろ午後の授業の始まる時間だから これで！
おじゃま！
わーっ
テオは話してくれました
エドガーとアランのことを

テオドール・ブロニス？
…ぼくはバカ話のつどいにきたんじゃない！
さっきから聞いてりゃ…バンパネラだのドラキュラだの！
伝説は伝説だみんなうそっぱちだ！
では話してくれませんかテオ？
きみの本だよキリアンの
転入生二人…！三月のおわりエドガーとアラン

やたら事件の多い月だった
中洲にあったぼくらの学校
あの時は二年もまえに川に落ちた生徒のまっ白な死がいが浮いてきて五月の創立祭が中止になった
その追悼ミサが始まるまえキリアンが
ぼくをよび出して――地下室でマチアスが死んでる
キリアンはマチアスが正体のバレたバンパネラに――エドガーとアランにやられた！といった
でもいいですかバンパネラなんていないんですからね！
沼までマチアスを二人ではこんだいきなりマチアスは目をさましたんだ…くそ
マチアスがとびかかり……キリアンは…さけんでぼくは夢中で
枯れ枝をマチアスにつきたてたんだおわり！
おわりだよ！なんとでもいぇマチアスは消えたんだそのとたんからだも服もクツも…
以上

はは
クツも？
キリアンはかまれて首から少し血が出てた
その日のうちに二人は
エドガーとアランはまた転校とかいって学校を出ていったよ
おわり！
キリアンはかまれたことを気にしていたかね？
気にしてましたよ！なんでそんなことを聞くんです！
もし連中が――バンパネラなら
ああもちろん伝説では
伝説ではバンパネラに血を吸われた人間は死んでバンパネラとしてよみがえるのだ
夜ごと夜ごと月の光の下生き血をもとめて影もなくさまよい
バラを枯らし十字架をおそれ流れる水をおそれ古い墓で眠り
そりゃお話だいやしないそんなものは！

…ではなにがいるのかね？
彼らはいったいなんなのかね？
時をかけるもの？バラを追うもの？
知らんですよ
きみはなぜ血をとった？
研究です！
彼らは人間かね？
彼らは…！
人間ではないだろう
ちがう…！
ちがう…なんであれ
われわれとは異質な生命体だ
――今でもどこかにいるのだろうか

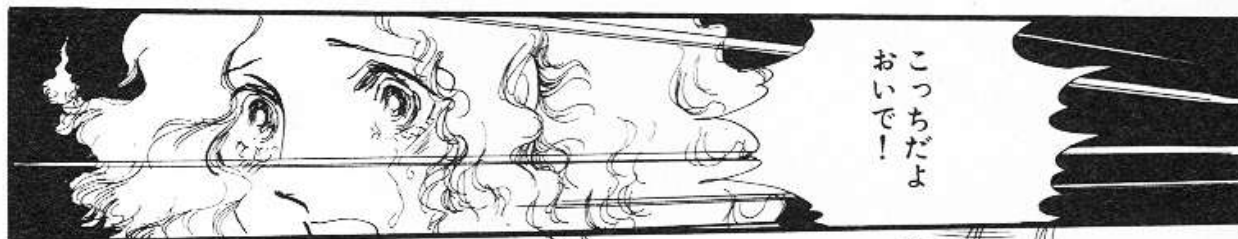
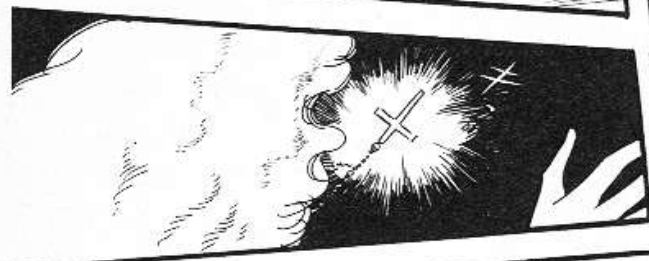
その青い目の少年はたったいまも
どこかの町かどに立ってるのかもしれない
彼らのはたを時はゆく
彼らにとって時はそのまま止まっている
かわってゆくのは周囲でありわたしたちのほうなのだ
それが夢であってもかまわない
その奇跡にもう一度出会いたい
きなくさくありませんかなんとなく息苦しいが
そういえば…
バタン

キャー
ふせて!けむりが!
火事だ!
こっちに火のてが!ドン!そちらのドアをあけて階段から!
オービンさんこっちもだ
一階からけむりが!
まだ逃げられる階段が焼け落ちないうちに!口をふさいで!早く!
オービンさん絵は!?

絵はほっとけドン早く！
マギー
すぐだ出口は左だぞ
みんなしっかり!!
シャーロッテ！
いたのに！
シャーロッテが…
ロジャー!!あぶな……
……絵を

ゴホンゴホン
ロジャー兄さん!
ヘンリー兄さん!
ロジャー
絵を…一枚だけ持ち出そうと思っただけなのに
階段はどこ!?
ロジャー
ロジャー助けて!
こっちだよおいで!
あ…あ

ロジャー兄さ…!!

ロジャー
ロジャー
ねえ
ロジャー
兄さん
今でも
どこかに
いるのかしら……
ロジャー
ロジャー
ロジャー
あ…
シャーロッテは…
シャー
ロッテは!?

こんなことは初めてだ こんなひどい妨害は！
夕食の時ストーブをたいていたでしょう 一階で
ちがう！火は消しておいたはずだ それにいったい連中のほかにだれが夢物語の集会人をみな殺しにしようとする
あ…あ
あなたが…あなたが…
こんな集会なんかひらかなかったら
ぼくたちをよばなかったら……！
ロジャー
ぼくが……応じなかったら！
シャーロッテ！
……シャ……

1780年　オズワルド・オー・エヴァンズ　遺書を残す
1783年　クリフォード・エヴァンズ　館を図書館として市に寄贈
1820年　ヘンリー・エヴァンズ　エドガーとメリーベルに会う
1879～1887年　リデル　森でエドガーとアランと暮らす
1888～1889年　クエントン卿　ランプトンを描く

1934年　オービン　エドガーに会う
1940年　オービン　年とったリデルに会う
1945年　オービン　図書館でエヴァンズの遺書を見つける
1950年　ドン・マーシャル　ランプトン画を古い館で発見
国定公園で，エドガー，アランと一夜をすごす
1953年　ドン・マーシャル　同人誌に「ランプトン」発表
1959年　西ドイツ　ガブリエルギムナジウムにエドガーとアラン現れる
1960年　マルグリッド・ヘッセン「グレンスミスの日記」発表
1964年　マーシャル　マルグリッドと会う　結婚
1965年　「バンパネラ狩り」をマーシャル発表
これを見たオービン　仲間にくわわる
クエントン館を買いいれる　画布多数発見
1966年　ルイス　テオをたずねる
クエントン館での集会と発火
シャーロッテ・エヴァンズ死亡（十四歳）

「ランプトンは語る」
昭和50年5月